

日本災害時公衆衛生歯科研究会 2022年度研修会  
2023年1月15日(日)10:00~12:30 (ZOOM Meeting)

## 災害時の歯科保健医療支援 初動において、行政歯科職が救った命 ～ 井下英二先生語録と共に～



福岡県歯科医師会 会員  
筑紫歯科医師会 医療管理担当理事  
(医) おおた歯科クリニック

太田 秀人  
droota@grace.ocn.ne.jp

● 井下英二先生の思いま次の世代に伝えるため、講演用スライドを整理して、公開資料としています

● 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

2016年4月14日(木) 21時26分頃前震発生  
2016年4月16日(土) 1時25分頃本震発生



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

● 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

● 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

派遣先 第1班スライドより引用

- 熊本県南阿蘇村
- 熊本県阿蘇保健所

基礎自治体に行くか、保健所に行くかで担う任務は全く異なるが異なる。また、任務のフェーズにより刻々と変化する

活動内容

- 被災地の医療、保健衛生状況の把握 (第2陣、3陣につなげるため)
- **被災自治体の保健医療体制の構築支援**
- 現地での活動に必要な資機材、車両の搬送
- 被災地救護所で避難住民への公衆衛生保健活動支援 (健康相談・心のケア・衛生面)

井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

## 災害時の保健活動の目的は 「命と健康を守ること」

### I 災害時の保健活動の目的

保健師をはじめとした保健医療活動を担う行政職員が災害時に担うものは、「**防ぎ得る死と二次健康被害の最小化**」である。

そのため行うべき対策としては、

- 1 医療対策
- 2 保健予防対策
- 3 生活環境衛生対策

の3つがあり、これらの対策を確実に遂行し、**命と健康を守ること**が使命である。

日本公衆衛生協会/全国保健師長会:災害時の保健活動推進マニュアル(令和2年3月版)P1より改変

● 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

災害支援の拠点となった南阿蘇村白水庁舎



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 8:35 白水保健センター避難所のトイレ 清掃が行き届いている



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 8:55 白水保健センターの避難所 歯磨き巡回中



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 8:57 白水保健センター避難所 歯磨き巡回中 お菓子は食べ放題



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 9:38 口腔ケアグッズの確認 十分な量と質が確保されていた



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 長陽 南阿蘇中学体育館の避難所  
避難所は無秩序状態 以前、あふれたトイレは  
4/22の時点では清掃は行き届いていた



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から

4/22 久木野 福祉センター避難所へ歯科相談に向く  
偶然出会った介護福祉士がやっているお口の体操(あいうべ体操)  
口腔内は比較的きれいだが  
義歯の持ち出し忘れ、入れ歯安定剤の不足が見られた



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

**\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から**

### 4月23日 南阿蘇村での1日

7:00 出発。7:20南阿蘇村白水役場到着。  
 8:30 井下 避難所への遺棄品巡回  
 9:10 全体ミーティング  
 (役場保健師、保健所保健師、医師会、薬剤師会、DMAT等約30名)  
**嘔吐、下痢の症状**が出てきた。**サーベイランス**を開始。診療体制確認。  
 9:40 感染対策ミーティング  
 長陽を重点的に、長陽、久木野、白水の分担を確認。調査事項を確認。  
 10:30 **Kさん、井下** 白水福祉センター、白水中学体育館、白水小学校体育館に鳥根県医療救護班の医師、薬剤師と訪問。  
**Kさん** 白水体育館、白水福祉センター、中松一区公民館に看護師2名と訪問  
 町作成の感染症予防ポスターと、手洗いの方法を貼付。管理者に汚物処理の方法と、管理場所、また感染疑いの方の部屋の有無について確認。  
 避難者全員に対し、**感染テラ**お配布するとともに、現在の症状を聞き取りサーベイランスを実施。  
**Sさん** 南阿蘇中学校体育館(長陽)へ。**感染症対策**実施。  
 白水小学校体育館にいた下痢症状のかた二人を白水庁舎の診察。  
 14:00 定時ミーティング。  
 16:00 定時ミーティング終了  
 17:30 宿舎に出発 18:30 宿舎到着

**外部歯科支援チーム現地入り**

井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

**\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から**

### 4月23日 白水庁舎での方々のミーティング 司会は地元の医師



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

**\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から**

### 4/23 福岡県歯科医師会の応援チーム到着

手前のベストの男性と右の紺のジャンパーの女性は地元の歯科医師スムーズに連携がなされていた



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

**\* 熊本地震当時の災害時における行政(歯科職)支援チームの活動報告から**

### 4/24 福岡県歯科医師会の応援チーム

アセスメント票(レベル2, 3)を用いてアセスメント始まる



井下英二:「熊本地震滋賀県支援隊 第2, 3班報告」より改変

### 外部歯科支援チームには様々な「役割」が

役割	4月23日	5月1日	5月8日~15日	5月15日~22日
コーディネーター	福岡県南	大分県南	宮崎県南	福岡県南
迅速支援	福岡県南	福岡県の3大学	鹿児島県南	沖縄県南
専門診療	兵庫JMATの歯科(兵庫県病院歯科医会)			
統括JMAT	西原			
地域のコーディネーター	科医師会			
先遣隊	山口 JMAT	前原県立大学(全国知事会)		福岡 JMAT
避難所対応				

中久木一、平成30年度災害歯科保健チーム養成支援事業災害歯科保健体制研修会配布資料より改変

### 熊本地震 南阿蘇地区での流れ

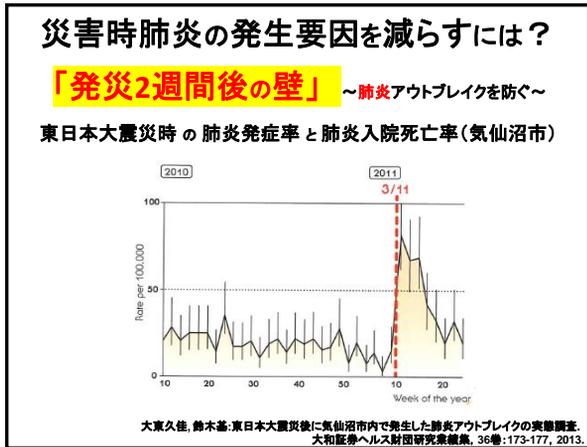
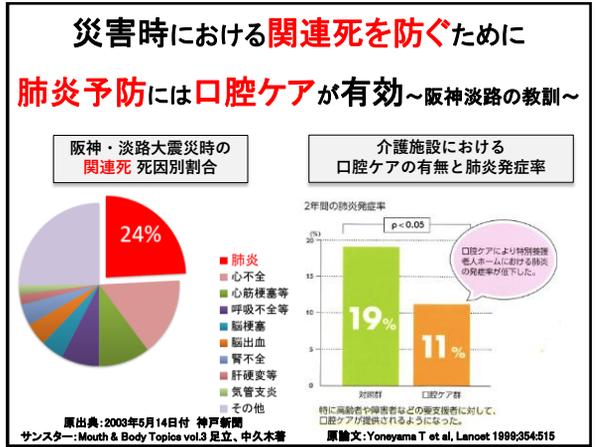
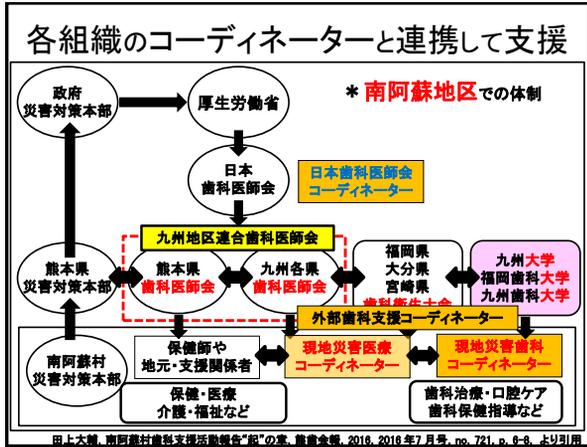
支援機関	4/24	15	16	19	22	23	24	25	5/1	7	8	14	15	21	22
熊本県歯科医師会															
支援県歯科医師会															
支援大学															

九州地区連合歯科医師会としての歯科保健医療支援活動

共有連携

南阿蘇村災害対策本部・災害医療対策本部

状況把握 → アセスメント・衛生用品配布・ポスター貼付  
 感染症対策(口腔ケア・歯科治療)  
 食べる支援(摂食嚥下評価・リハビリ)  
 歯科保健指導+健口リハビリ体験



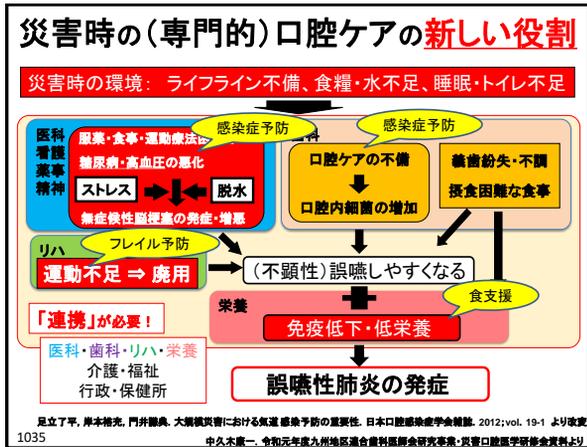
### 災害時肺炎の発生要因を減らすには?

#### 施設・自宅からの肺炎入院は高死亡率

東日本大震災時の肺炎発症率と肺炎入院死亡率(気仙沼市)

	自宅	介護施設	避難所	合計
震災前	生存 162 (84%)	24 (75%)		186 (83%)
	死亡 31 (16%)	8 (25%)		39 (17%)
震災後	生存 89 (76%)	22 (55%)	54 (90%)	165 (76%)
	死亡 28 (24%)	18 (45%)	6 (10%)	52 (24%)

大東久佳, 鈴木基: 東日本大震災後に気仙沼市内で発生した肺炎アウトブレイクの実態調査. 大和証券ヘルス財団研究業績集, 36巻:173-177, 2013.



### 「起」～初動～

#### 第一班(本震後7日～15日)

<ミッション>

- ・住民全員のアセスメント実施
- ・災害時要配慮者対策
- ・避難所等の感染症対策
- ・「誰でもできる」仕組み作り

**先行活動中の行政 歯科医師から情報提供  
活動計画、方針などを引継ぐ**



© 2019 DPHD

**(行政職は) 災害時はこの情報を収集する**

情報収集項目	
①管内の被害状況	⑥病院の被災状況、稼働状況、患者受入状況
②交通機関の状況（鉄道、空港など）	⑦医薬品・医療機器の不足の状況
③災害時利用可能道路情報	⑧避難所の状況
④管内市町村役場の被災状況	⑨救護所の状況
⑤医師会等関係機関の被災状況	⑩その他、地域特性に応じた情報

日本公衆衛生協会/全国保健師長会：災害時の保健活動推進マニュアル(令和2年3月版) P9より改変

**先行活動中の行政 歯科医師は  
情報提供の後も見守った**



**「外部歯科支援第1班・初発チームの  
重要任務」**

**まず、「現地状況・被害概要の把握」**

- ①町 地名・人口などと、被災・復興状況など
- ②保健・医療 行政・保健所・医療機関の状況など
- ③被災者 避難所の分布と人数、支援状況など
- ④要配慮者 乳幼児、妊婦、高齢者、障害者など
- ⑤関係者 現地歯科保健医療キーパーソンなど

「アセスメント」(評価)して、  
「必要とされている」支援を立案

**被災地区の基本情報・被害状況を把握する**



**<井下語録>**

\*外部歯科支援チーム到着時の引き継ぎ時にて

**とりあえず、  
ザーンと回られたらどうですか？  
人となりも、全体が分かるので。  
ザーンと回って一周してから、  
とりあえず、どうしようか、って決めたら。  
とりあえず、あんまり手も口も出さずに。  
戻ってきたら、さて何しようか？  
どこの地区が優先とか？**

東日本大震災 宮城県南三陸町

## 震災後の被災地の全体像が知りたい

大田秀人ほか、東日本大震災 歯科医療従事者派遣活動報告 平成23年度福岡県警察歯科医会研修会

## 「避難行動要支援者名簿」を確認できず

災害時の**遠隔・後方支援**

熊本県内の障害児・者と高齢者の全施設をインターネットにて検索

河瀬総一郎先生 (宮城県石巻市 雄勝歯科診療所)

森田浩光先生 (福岡歯科大学 総合歯科学講座 (当時))

市町村等各自治体における体制整備の参考例

## 「保健・福祉分野が把握すべき情報(一部抜粋)」

- 1、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会
- 2、市内及び管内、二次医療圏の医療機関、歯科医療機関
- 4、**社会福祉協議会**、ボランティアセンター
- 5、**介護保険事業所**  
(居宅介護支援事業所、**訪問看護ステーション**、訪問介護事業所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム等)など)
- 6、**地域包括支援センター**、子育て支援拠点
- 7、生活支援センター、**障害者福祉施設**
- 8、文教施設(学校、保育園、幼稚園)、**地区公民館**

日本公衆衛生協会/全国保健師長会:災害時の保健活動推進マニュアル(令和2年3月版) P111より改変

## < 井下 語録 >

\* 外部歯科支援チーム到着時の引き継ぎ時にて

# 「人に日常を取り戻させる」

# 「人に役割を与える」

まずはグルグル回ってみて下さい。  
「地べたを見る」いうんが、一番大切なんですね。

## 「全国統一」歯科アセスメントで「引継ぐ」

保健師、行政歯科職 → 歯科支援チーム、地元歯科関係者など

避難所アセスメント (全体・迅速) → 歯科口腔保健 集団アセスメント (集団・迅速) → 個別評価

1102 中久木康一著、歯科医院の防災対策ガイドブック、第1版、医書堂出版株式会社 より改変

## 「全国統一」歯科アセスメントで「引継ぐ」

保健師、行政歯科職 → 歯科支援チーム、地元歯科関係者など

避難所アセスメント (全体・迅速) → 歯科口腔保健 集団アセスメント (集団・迅速) → 個別評価

1102 中久木康一著、歯科医院の防災対策ガイドブック、第1版、医書堂出版株式会社 より改変

東日本大震災 宮城県南三陸町

## 他職種との連携のために「標準化」が必要

～広域・複合災害での課題～

### 「点」から「線や面」の支援へ



太田秀人: 東日本大震災 歯科医療従事者派遣活動報告 ～次の災害に備えるために～、九州大学歯学部病院にて

## 初動期のアセスメント

\* 歯科支援チームとして

集団レベルにおける歯科ニーズを

**迅速評価**

 (全体を、広く、浅く、速く)
 

×

**全体把握**

 (地域全体 ⇒ 個別評価)
 

↓

行動計画決定

 (支援の優先順位など)

中久木康一、令和元年度厚生労働省医療関係者研修費等補助金災害医療チーム等養成支援事業  
「令和元年度災害歯科医療支援チーム養成支援事業」災害歯科医療関係者研修費資料より引用・改定

## 4月24日 アセスメント当日

外部歯科支援チームが

- 必要としている情報
- アセスメントすべき情報は？

## 歯科保健・医療対策

\* 行政(歯科職)支援チームとして

5) 歯科保健・医療対策

以下、歯科保健・医療対策について、まず、高リスクとなる要件を【歯科保健・医療対策のチェック項目と症状】として示し、次に【保健衛生部局・保健所本部における対策の立案】、その次に個人への具体的な【保健指導】として記載する。【チェック項目】に多くチェックが付く場合は、優先的に対策を進めるべきである。

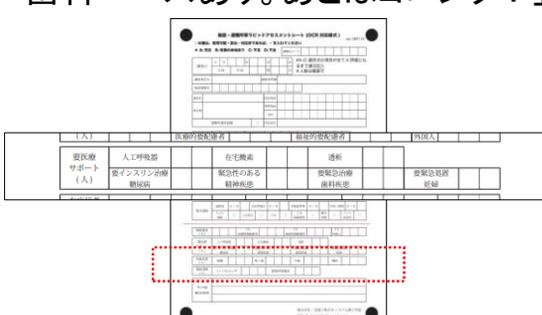
【歯科保健・医療対策のチェック項目と症状】

	チェック項目
歯科保健・医療対策	<input type="checkbox"/> 口腔衛生や口腔機能の低下に配慮が必要な対象者がいる (配慮が必要な者: 乳幼児・妊婦・後期高齢者・障害児者・要介護者・糖尿病等の有病者)
	<input type="checkbox"/> 飲料水・生活用水・洗口場所が不十分である
	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き剤、コップ、義歯洗浄剤、義歯ケースなど資機材が不足している
	<input type="checkbox"/> 口腔清掃状況が不十分である
	<input type="checkbox"/> 歯痛や口内炎を訴える者、食事摂取が不自由な者がいる
	<input type="checkbox"/> 歯科診療所、巡回歯科チームなどの歯科保健医療体制がない

日本公衆衛生協会/全国保健師長会: 災害時の保健活動推進マニュアル(令和2年3月版) P57

保健師、行政歯科職

## 「歯科ニーズあり。あとはヨロシク！」



令和元年度医療・保健・福祉と防災の連携に関する作業グループ: 施設・避難所等ラピッドアセスメントシート ver180115

歯科支援チーム、地元歯科関係者など

## 初動期のアセスメント

集団レベルにおける歯科ニーズを

**迅速評価**

 (全体を、広く、浅く、速く)
 

×

**全体把握**

 (地域全体 ⇒ 個別評価)
 

↓

行動計画決定

 (支援の優先順位など)

中久木康一、令和元年度厚生労働省医療関係者研修費等補助金災害医療チーム等養成支援事業  
「令和元年度災害歯科医療支援チーム養成支援事業」災害歯科医療関係者研修費資料より引用・改定

歯科支援チーム、地元歯科関係者など

## 「迅速」「多面的」な「集団」をアセスメント

項目	
基本情報（※事前把握）	
対象者*	避難者数 災害時要配慮者数
(1) 歯科医療	歯科保健医療の確保状況
(2) 環境	水・洗口場の確保状況
(3) 用具	歯ブラシ・歯磨剤の確保状況
(4) 行動	口腔衛生行動助の有無
(5) 症状	痛みや不自由さの有無
その他	



引用：日本災害時公衆衛生歯科研究会HP <http://jsdphd.umin.jp/>

## ＜井下語録＞

\* 外部歯科支援チームが集団・迅速歯科アセスメントに出発する前に

これは私が「ざっとやってみた」もの。  
「分かるところだけやってみた」もの。

歯科的なニーズが出てくると思うので  
その中から「優先度をつけて」、  
「できるものから」やっていく

## 現地歯科コーディネーターの指揮下に入る



地元歯科医師

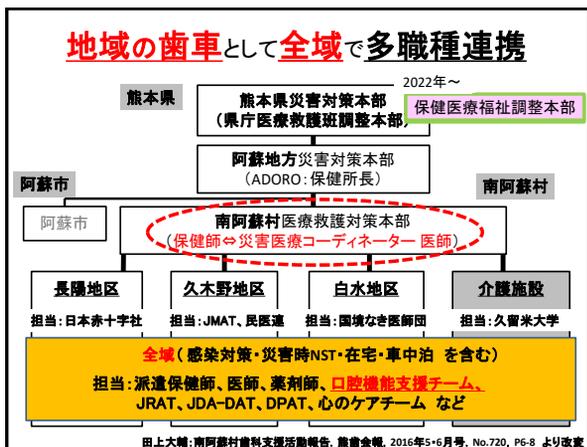
避難所等の状況や、これまでの全体会議の流れの説明を受ける



地元の基本情報（地理・地名など）を聞き取る

## 現地歯科コーディネーターからの説明内容

「歯科に関しては井下先生に従うように」  
これまでは、緊急の支援物資の支給が終了。  
最初の1週間は、歯科的トラブルの予防。  
井下先生からは「10名程度の口腔ケアの必要性がある」と報告が入っている。  
今後は実際のトラブルに対応する体制を作る。  
すでに、行政的な手続きは終了している。



## 「集団・迅速アセスメント」で「迅速に評価」

- 1、災害時要配慮者の状況
- 2、口腔清掃等の環境
- 3、口腔清掃用具等の確保
- 4、口腔清掃状況
- 5、歯や口の訴え・異常
- 6、歯科保健医療の確保
- 7、その他

\* 熊本地震当時は、旧様式で実施



日本災害時公衆衛生歯科研究会 <http://jsdphd.umin.jp/workshop.html> より

＜井下語録＞

\*外部歯科支援チームが集団・迅速歯科アセスメントを終了した後に

「一覧表にしたら、何か見えてくる」と思いますよ。  
 「まずいところ」を見る。  
 相手が10人なら1人、50人なら3人いる。  
 「優先度」を決める。  
 治療か、口腔ケアか。  
 高齢者が多ければ、どうするか。

「簡易総括表」で「全体を俯瞰」

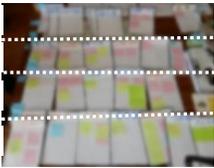
\*原本地震当時は、旧様式で作成

避難所等歯科口腔保健 標準アセスメント票 (レベル2) 用 簡易表(簡易版)		市町村名	作成年月日								
アセスメント実施年月日	2016年 12月 1日 → 2016年 12月 7日	川口市	2016年 12月 7日								
作成者氏名(団体の)	「橋本 浩一」	◎良好・問題なし、○ほぼ良好・ほぼ問題なし、△やや問題あり、×大いに問題あり、-不明									
No.	避難所等の名称	避難所等の人数(人)	100人以上の特別に高齢者に多い避難所(人、%)	避難所等の種類	避難所等の状況	避難所等の状況	避難所等の状況	避難所等の状況	避難所等の状況	その他の問題	備考
1		10	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等
2		6	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等
3		10	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等
4		16	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等
5		77	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等
6		15	0%	○	○	○	○	○	○		避難所等

「避難所等トリアージ」で「流れを読む」

①「アセスメント結果」のトリアージ

- 最重要
- 重要
- 注意
- 観察



②「付箋」でのトリアージ

- ピンク(=未解決)
- 青(=解決または不要)

➡ 個別評価や、再度、集団アセスメントへ

「こういうのって、名前をつけるなら」

DMAT

Disaster Medical Assistance Team

DDAT

Disaster Dental Assistance Team

DOCAT

Disaster Oral Care Assistance Team

JDAT

Japan Dental Alliance Team

アセスメントを引き継いだ者の「役割」

「整理」はこちら(=引き継いだ側)でやる

「一覧にする」⇒「優先度をつける」

見えてきた「何か」を「とりあえず」「やる」

「ざっとやって」「伝えて」「よりいいものを」

「情報共有」による「多職種連携」



日赤 DMAT



JDA-DAT(栄養士チーム)



### アセスメントの情報を共有し 亜急性期から「感染症対策」「食支援」

保健師、JMATや日赤と協働

JDA-DATやJRATと協働

栄養士 歯科医師

JMAT 医師 薬剤師、看護師 歯科医師 歯科衛生士

歯科医師 言語聴覚士

太田秀人, 中久木康一 熊本地震後の南阿蘇地区において口腔機能支援を通じて多職種と連携した「食べる」支援活動の報告, 日本災害食学会誌VOL.9 NO.2 PP.69-76 MARCH 2019 より引用・改変

### 食中毒: 栄養士チームとの連携で食支援

地元 栄養士 熊本県 職員 支援 歯科医師

支援 栄養士 支援 歯科医師

要配慮者には **大きなおにぎり** 小さくしたおにぎりとお粥

資料提供: 平成29年度災害口腔医学研修会 加藤智嵩先生(福岡歯科大学)より

### 窒息事案: 高齢女性の自宅にあった食事

パン 煮物

丸い、小さなおにぎり

資料提供: 平成29年度災害口腔医学研修会 山添淳一先生(九州大学歯学部)より

### 支援チームと地元歯科・介護関係者との 多職種連携による食支援

JMAT 地元介護福祉士

支援歯科医師 地元歯科医師 支援歯科衛生士

要配慮者

資料提供: 平成29年度災害口腔医学研修会 山添淳一先生(九州大学歯学部)より

### 第2班以降との引継ぎや 多職種との連携にも活用

### 災害亜急性期からできる多職種連携

状況	連携先	具体的方法
情報収集(避難所)	本部、保健師など	会議での情報共有
(在宅、公民館)	本部、保健師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネなど	リスト・調査情報共有 口腔ケアグッズ配布
(施設、要配慮者)	本部、ケアマネなど	リスト、名簿閲覧
啓発活動(口腔ケア)	保健師、JMAT、薬剤師など	口腔ケアグッズ袋、チラシ
(口腔リハビリ)	JRAT、保健師など	チラシ、アナウンス
感染症(ノロ、インフル)	本部、JMAT、薬剤師など	ゾーニング、治療検討など
妊婦、(心身)障害児者	保健師、JMAT、精神など	福祉避難所、特別室対応など
「食べる」行動の問題	保健師、JMAT、JDA-DAT、JRAT、薬剤師会など	災害時ミールラウンド
「食べ物」自体の問題		団体間での協議・調整
「フレイル」対策	保健師、JRAT、JMATなど	リハビリサロン

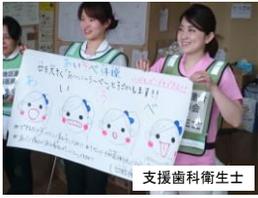
## 「承」 ～連携～

### 第二班(本震後15日～22日)

＜ミッション＞

- ・急性期から慢性期への活動実施
- ・多職種・地元との連携を強化

## 「口腔ケア」で「多職種と地域を繋ぐ」



支援歯科衛生士

JRAT、DPAT、保健師等との**集団リハビリ指導**と協働し口腔ケア指導



地元歯科医師 施設職員

### 施設職員研修を兼ねて 口腔ケア支援

JRAT: 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会、DPAT: 災害派遣精神医療チーム  
\* 田上大輔先生(熊本県歯科医師会)提供

## 「あいうべ体操」で口呼吸から鼻呼吸に促し、 天然のマスク(=鼻)を活用する

- ・口の乾燥予防: 唾液腺マッサージ
- ・不活発病予防: 健口体操
- ・ムセ予防: 嚥下体操
- ・便秘予防: ラジオ体操
- ・肌荒れ予防: 顔マッサージ



上記体操は呼吸器科の医師が「あいうべ体操」の重要性を説明し、

口を大きく「あーいーうーべー」と動かします  
 ●できるだけ大きに、声は少しでOK!  
 ●1セット(秒前後)ゆっくりとした動作で!  
 ●一日30セット(3分程度)を目安にスタート!  
 ●あごに痛みのある場合は、「いーうー」でもOK!  
※お名前、トピック、年齢など、書き添ってご活用ください。

資料提供: 今井一彰先生(みらいクリニック)より

## 集団に対する啓発活動

### 「フレイル対策」の一環として、 JRAT・保健師らとのリハビリサロンで啓発





太田 勇人、中久木 真一: 熊本地震後の南阿蘇地区において口腔機能支援を通じて多職種と連携した「食べる」支援活動の報告, 日本災害食学会誌VOL.6 NO.2 PP.60-76 MARCH 2016 より引用・改定

## 1日3回、たった9秒「ベロタッチ」



毎日 やさしくタッチしましょう。

### ＜主な効果＞

- ・唾液が増える
- ・舌がよく動くようになる  
(赤ちゃんも、高齢者も)
- ・偏食が減る  
(舌が動き、食べ物をこなしやすくなる)

## 「転」 ～引継～

### 第三班(本震後22日～29日)

＜ミッション＞

- ・災害慢性期でのリハビリテーション実施
- ・地域医療へバトンを繋ぐ



### 南阿蘇地区での歯科支援活動実績

「アセスメント」

- ・集団・迅速 37件 (県全体実施数384件)
- ・個別 337件

迅速な情報収集  
⇒ 全体評価  
⇒ 支援計画共有

「口腔機能支援」

- フレイル予防
- 摂食・嚥下リハ 12件 (3%)
- 摂食指導 25件 (6%)
- 歯科治療 46件 (12%)
- 食支援
- 感染症予防
- 口腔ケア 252件 (62%)
- 摂食・嚥下評価 69件 (17%)

・派遣期間中(4/23~5/22)では肺炎での入院 1件  
・発災後半年(10/14)時では肺炎での災害関連死認定なし

### 地域の「近助」が 外部支援者を活かす

<発災前> **地域包括ケア**  
多職種連携による**口腔機能支援**と**食支援**体制の確立

- ① 地元歯科医師と**南阿蘇村保健師** (地域保健活動等)
- ② 地元歯科医師と**介護施設職員**等 (訪問歯科診療等)
- ③ **阿蘇都市歯科医師会**と**阿蘇保健所** (地域保健活動)

<発災後> **地域災害支援**

人的 ④ 地元歯科医師: 対策本部会議に当初から参加

環境 ⑤ 行政: 正常に機能, 迅速な対策本部の立ち上げ (南阿蘇村保健師と災害医療コーディネーターが連携)

⑥ 災害医療コーディネーター: 災害歯科に対する理解

支援 ⑦ 支援チーム: 過去の災害支援活動で得た 知識とスキル

田上大輔: 南阿蘇村歯科支援活動報告・熊善会報・2016年11月号・No.725・P4-6より改変

### 外部歯科支援撤退後も 県内関係者で 歯科保健指導と**介護予防事業**

「8020推進員」による 福祉避難所フォロー  
地元県歯・県衛による 仮設住宅フォロー

社会福祉協議会  
介護予防事業予算

九州北部豪雨(2017年)

九州北部豪雨・朝倉市・東峰村

平成29年に九州初大雨**特別警報** 避難指示**45万人**に発令

九州北部豪雨・朝倉市・東峰村

### 災害時の歯科支援が全て必要だった

- 身元確認**
- ・死者 37名 (朝倉市 34名、東峰村 3名)  
\* H30/6/1現在(このほか、大分県日田市で死者3名)
- ・不明者 2名 (朝倉市) \* H30/6/1現在
- 歯科医療**
- ・避難者 約1500名 \* H29/7/6現在  
(朝倉市 1011名/人口54412名、東峰村 486名/人口2204名)
- ・避難所数 計15か所
- 歯科保健**
- ・高齢者・障害者施設 計19か所  
(指定避難所外)
- 会員支援**
- ・歯科医院被害 9/39件  
(朝倉市7/37件、東峰村2/2件)

九州北部豪雨・朝倉市・東峰村

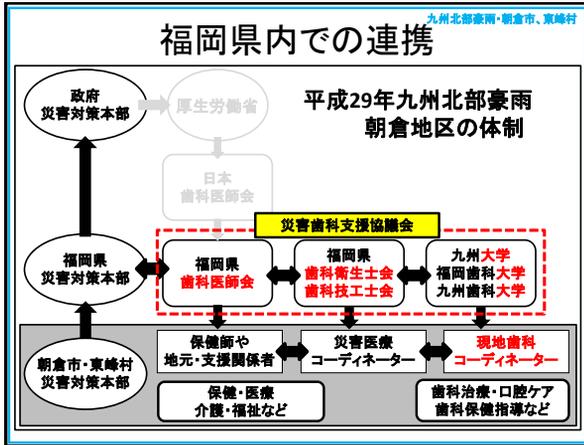
### 災害時の**遠隔・後方支援**

朝倉市と東峰村の障害児・者と高齢者の全施設をインターネットにて検索

河瀬総一郎先生 (宮城県石巻市 雄勝歯科診療所)

井上文弘 会長(当時) (朝倉歯科医師会)

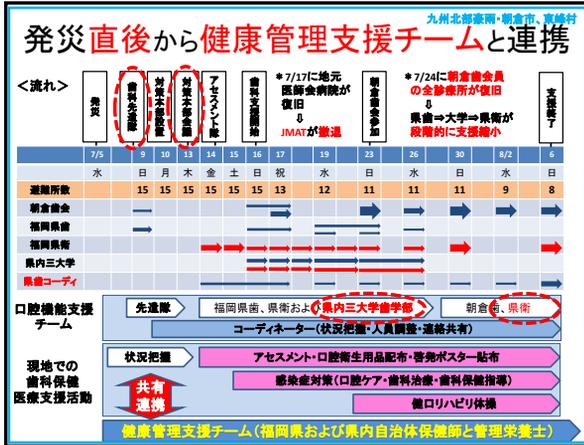
川端貴美子先生、中尾元紀先生 (福岡県歯科医師会)



九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

### 歯科支援の特徴＝「顔の見える連携」

- ① 保健師・管理栄養士との連携  
→福岡県・医師会らとの連携
- ② 地域連携室DHによる保健活動  
→地元保健師らとの連携
- ③ 福岡県内三大学との協働  
→地元歯科医師会らとの連携



九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

### 1、先遣隊～歯科支援協議会

- (1) 現地までのルートの確認
- (2) 必要書類・器材の整備

**「道標」～井下語録から～**  
 とりあえず、  
**ザーツと回られたらどうですか？**  
 人となりも、全体が分かるので

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

### 2、先遣隊～歯科支援協議会

- (1) 指揮系統の調整と安全確認
- (2) 県歯・県衛・大学間の連絡ML整備

**「道標」～井下語録から～**  
 まずはグルグル回ってみて下さい。  
**「地べたを見る」**いうんが、  
 一番大切なんでね。

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

### 3、アセスメント隊現地入り～会議前

- (1) 現地地図と打合わせ場所等の確保
- (2) 行政担当者に避難所の状況確認

**「道標」～井下語録から～**  
**ザーツと回って一周してから、**  
 とりあえずどうしようか、って決めたら。

#### 4、全体会議後～アセスメント出発前

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

(1) 他職種の活動状況の把握取りまとめ

(2) アセスメントのルート調整

**「道標」～井下語録から～**

とりあえず、あんまり手も口も出さずに。  
戻ってきたら、さて何しようか？  
どこの地区が優先とか？

#### 5、アセスメント後～全体会議前

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

(1) 結果集計と簡易総括表の作成

(2) 指揮系統の調整と安全確保の再確認

**「道標」～井下語録から～**

「一覧表」にしたら  
何か見えてくるとおもいますよ

#### 6、会議後～歯科支援チーム派遣前

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

(1) 次の歯科チームへの事務連絡・調整

(2) 指揮系統の確認と安全確保の再確認

**<井下語録>**

歯科的なニーズが出てくると思うので、  
その中から**「優先度をつけて」、**  
**「できるものから」**やっていく

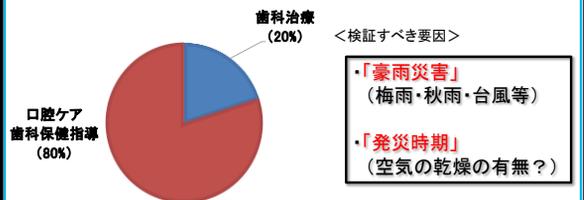
#### 結果：支援活動実績(朝倉市・東峰村)

九州北部豪雨・朝倉市、東峰村

- ・ 派遣期間中に、**肺炎による入院は「0」**
- ・ **肺炎による災害関連死の認定は「0」**

(発災半年後のH30/1/5時点)

- ・ 支援内容：**口腔ケア・歯科保健指導中心**



災害時の歯科保健医療支援

初動において、行政歯科職が救った命

～ 井下英二先生語録と共に～

<課題>

**「災害時の保健医療福祉介護連携」**

在宅療養者へ初動から介入し、  
撤退時は確実に**引き継ぐ**ためには？

#### 災害図上訓練(DIG: Disaster Imagination Game)



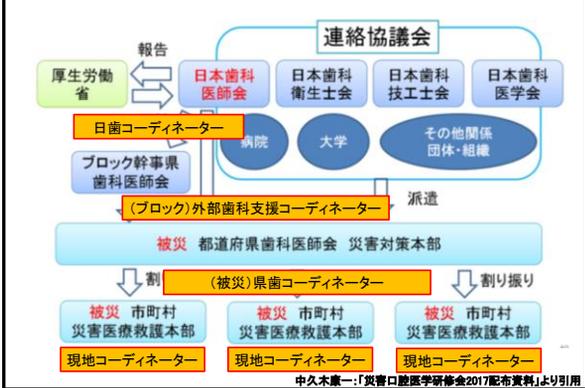
**「時間制限・意見交換」**

≡ **「疑似体験」**

右: 災害時歯科医療支援研修会(平成30年2月 福岡県歯科医師会館)

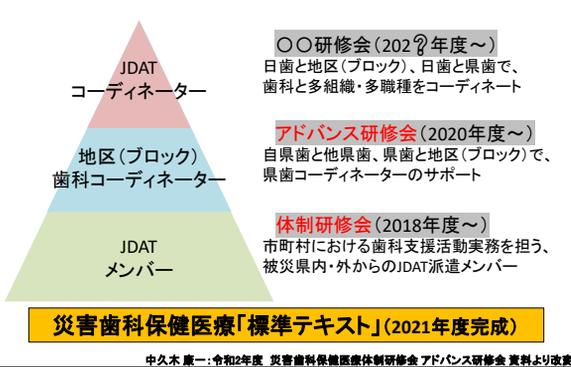
左: 災害口腔医学研修会(平成29年度九州地区連合歯科医師会研究助成事業)

### 災害時のコーディネーターは重要ミッション



中久木 康一：『災害口腔医学研修会2017配布資料』より引用

### JDAT (Japan Dental Alliance Team) 設立へ ＝日本災害歯科支援チーム



中久木 康一：令和2年度 災害歯科保健医療体制研修会 アドバンス研修会資料より改変

### 平時から自治体や介護職種と「訪問診療」「食支援」

平時 在宅での訪問診療      熊本地震 本震10日後から協働

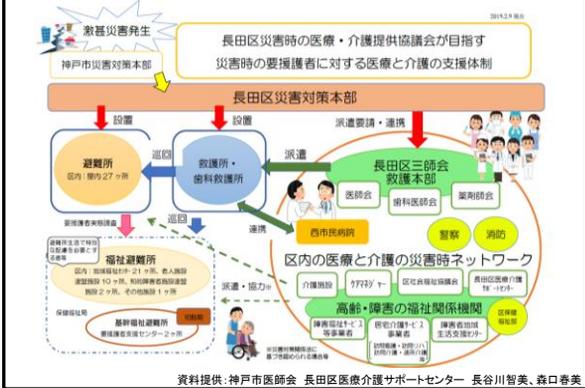


太田洋人 中久木 康一：熊本地震後の南阿蘇地区において口腔機能支援を通じて多職種と連携した「食べる」支援活動の報告。日本災害学会誌VOL.6 NO.2 PP.69-76 MARCH 2019 より引用・改変

### 「災害時の保健医療福祉介護連携」

- <課題>
- 1、災害現場を疑似体験する研修会
  - 2、コーディネーターの育成
  - 3、平時から食支援や訪問診療で多職種連携
- <連携先と役割>
- 大学：病診連携
  - 医科：周術期管理、糖尿病連携
  - 自治体・介護職：介護保険事業

### 神戸市長田区の医療介護ネットワーク



資料提供：神戸市医師会 長田区医療介護サポートセンター 長谷川智美、森口春美

### マニュアルには無い

<井下語録>

「人には**役割**がある」

「**君**は残って」

「**とりあえず**」

日本公衆衛生協会/全国保健師長会：災害時の保健活動推進マニュアル(令和2年3月版)